

第 1 回～第 3 回審議会での意見への主な対応状況

No.	意見等の概要	対応状況
1	ウィズコロナで社会が大きく変わる中、地方回帰が言われ始めている。	
2	コロナ禍により、東京一極集中から地方の価値が改めて顕在化したところがあり、若者をはじめとした地方回帰の動きも踏まえ、これを契機に新しい地域のあり方や鹿児島県の価値を考える視点が重要。	<p>・時代の潮流「価値観の変化・多様化」について、<u>地方回帰に関する表現を追加</u></p> <p>(資料 1 0 : P 3 ~ 4 「時代の潮流」)</p>
3	県外から移住される方はこれからも増えるのではないか。	
4	指標だけではなく、豊かな精神性とか、「人」に着眼する必要があるのではないか。	<p>・都市像の「彩り」について、<u>その趣旨がより分かりやすくなるよう文章表現を見直し</u></p>
5	「躍動都市」という言葉は良いと思う。但し「都市の躍動」とは何をさすのか定義が必要。	<p>(資料 1 0 : P 8 「都市像」)</p>
6	シビックプライドは用語の補足説明が必要である。	<p>・シビックプライドなど、<u>分かりにくいと考えられる言葉について、注釈を記載</u></p>
7	基本目標「信頼とやさしさのある 共創のまち」の「市民や行政、様々な地域団体や事業者など多様な主体が協働・連携し」の部分は、語順の整理・工夫が必要ではないか。	<p>・基本目標「信頼とやさしさのある 共創のまち」の文言を修正 (修正前) 市民や行政、様々な地域団体や事業者など多様な主体が協働・連携し</p>
8	中核市の中でこれだけ大学が集まっている都市は珍しく、本市の特徴的な部分であろうと思う。県外で発展している都市は大学とともに地域づくりに取り組んでおり、地域づくりと大学という視点を盛り込めないか。	<p>(修正後) <u>市民や地域団体、大学、事業者、行政</u>など多様な主体が協働・連携し</p> <p>(資料 1 0 : P 9 「基本目標」)</p>

No.	意見等の概要	対応状況
9	基本目標「自然と都市が調和した うるおいのあるまち」の語順は、「ごみの3Rや適正な処理を進め」ではなく、「3Rによるごみの減量や適正な処理を進め」とすべきではないか。	<p>・基本目標「自然と都市が調和した うるおいのあるまち」の文言を修正  (修正前)  ごみの3R（発生抑制：リデュース、再利用：リユース、再生利用：リサイクル）や適正な処理を進め  (修正後)  <u>3Rの推進によるごみの減量化・資源化</u>や適正な処理を進め  (資料10：P9「基本目標」)</p>
10	環境に関して市民全体で取り組んでいく表現を盛り込めないか。	<p>・基本目標「自然と都市が調和した うるおいのあるまち」の文言を修正  (修正前)  環境に配慮した生活スタイルへの転換により、ゼロカーボンシティかごしまの実現を目指します  (修正後)  環境に配慮した生活スタイルへの転換を進め、<u>市民みんなで</u>ゼロカーボンシティかごしまの実現を目指します  (資料10：P9「基本目標」)</p>
11	基本目標「自然と都市が調和した うるおいのあるまち」に「緑あふれる、うるおいのあるまち」とあるが、鹿児島市は海が近く、自然は緑だけでなく青もあるのではないか。川や海など水に対することを入れるべきではないか。	<p>・基本目標「自然と都市が調和した うるおいのあるまち」の文言を修正  (修正前)  緑あふれる美しいまちづくり  (修正後)  <u>水と緑豊かな</u>美しいまちづくり  (資料10：P9「基本目標」)</p>

No.	意見等の概要	対応状況
12	高齢者にとって、元気をもらったり与えたり知恵をもらったり、共助互助の生活が重要。	<p>・基本目標「自分らしく健やか暮らせる 安心安全なまち」の文言を修正            (修正前)            健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、共に助け合い、一人ひとりが自分らしく生活できる地域づくりを進めます            (修正後)            健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、<b>高齢者や障害者をはじめ、市民一人ひとりが、共に支え合い、生きがいを持って</b>自分らしく生活できる地域づくりを進めます</p> <p>(資料10：P10「基本目標」)</p>
13	基本目標「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」の文頭に唐突に「結婚」と出てくるのは違和感がある。	<p>・基本目標「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」の文言を修正            (修正前)            結婚、妊娠・出産、子育ての切れ目のない支援を充実するとともに、未来の力となる子どもたちの明るく健やかな成長を支えます            (修正後)  <b>市民の</b>結婚、妊娠・出産、子育ての<b>希望をかなえる</b>支援を充実するとともに、未来の力となる子どもたちの明るく健やかな成長を支え、<b>安心して子どもを産み育てられるまちづくりを進めます。</b></p> <p>(資料10：P10「基本目標」)</p>
14	「目指す都市像とはなんだろう」と思うと、フレーズとしては、やはり「安心して子育てできるまち」ということではないか。	
15	子育てをするまちなんだという希望を裏切らないという方向性が打ち出せないか。	
16	安心して子育てができる、鹿児島市が好きだという人が増えていけば人口流出は防げる。	
17	基本目標「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」の文中、「切れ目のない」という表現は、結婚から出産、子育てまでつながっているように見えるが、それぞれ個別の選択だと思う。結婚への考え方や性自認の多様性も社会的に認識され、ジェンダー平等が言われる中で適切か。	

No.	意見等の概要	対応状況
18	<p>子育てにおける福祉は多様化してきており、障害のある子どもにかかる福祉関係の部分も大きくなり、学童保育も行われている。「学校」という文言だけが出てくると、福祉の部分が見えづらいので、もっと多様な場で育っていくという表現にできないか。また、鹿児島市のモデルとして、子育てに関しては、教育と福祉が融合するような方向性・表現の工夫ができないか。</p>	<p>・基本目標「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」の文言を修正            (修正前)            学校・家庭・地域が連携・協働しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を進めます            (修正後)            学校・家庭・地域・<b>事業者など</b>が連携・協働しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を進めます。</p> <p>(資料10：P10「基本目標」)</p>
19	<p>社会における様々な機能や主体の複合化・協働・連携を率先、先導するという観点も重要（コミュニティ協議会、コミュニティスクール、地域包括ケア、まちなか図書館など）</p>	
20	<p>信頼・共創政策は横断的な概念を表していると思う。シティプロモーションなど、今後10年間でどう世の中が変わるか分からない中、ぶれない軸が通っていることで住んでいる人のプライドにつながるのではないか。</p>	
21	<p>都市像の中で、「そのため市民一人一人が互いに尊重し合い、個性と能力を発揮しつつ市民、事業者、鹿児島への思いを寄せてくださる多くの人々、関りのある団体など様々な交流により相互のつながりを深めることにより新たな価値が多彩な魅力を生み出し、人もまちも躍動する鹿児島市の創造を目指す」とあるが、ここは市民一人一人の努力を言われているように感じる。一方、信頼・共創政策の基本目標のうち、「健全財政の維持や効率的で質の高い行財政サービスの展開」は行政の努力である。具体的に、何をすれば、都市像につながっていくのか整理が必要。</p>	<p>基本目標「信頼・共創政策」は、他の基本目標のベースになるものであり、また各基本目標も相互に関連し、連携していく面もあることから、<b>都市像を実現するための基本目標の位置づけが伝わるよう、「4 総合計画の体系図」を修正</b></p> <p>(資料10：P11「総合計画の体系図」)</p>
22	<p>どの基本目標が都市像のどこにつながっているのか、都市像と基本目標の関係がもう少し分かりやすく入ってくるといいのではないか。</p>	

No.	意見等の概要	対応状況
23	<p>県外からの視点なども踏まえながら、具体的に進めていくべきである。</p>	<p>これまで、<u>県外の有識者ヒアリングやアンケート調査を通して、県外在住者の意見を参考にしながら進めているところ</u>であり、実施計画等においても参考とさせていただきます。</p>
24	<p>働き方改革などコロナ前からある課題と、新しい生活様式などコロナ後に新しく出てきた課題は、解決の時間軸が違うので分けて議論した方がいい。</p>	<p><u>前期基本計画（素案）の中で、基本目標別・地域別の現状と課題、基本的方向等</u>を示しており、実施計画等においても参考とさせていただきます。</p>
25	<p>市民が、総合計画に示された施策・取組に、チームの一員として参加・挑戦できるような計画になればいいと思う。例えば、一人一個ごみを拾うとか、何かそういう具体的なことで、参画できるような実施計画になればいい。</p>	<p><u>基本計画(素案)において、基本施策毎に市民・地域、事業者・団体の役割について記載しており</u>、実施計画等においても参考とさせていただきます。</p>
26	<p>地域にある資源をもう一度発掘したり見直していく必要があるのではないか。</p>	<p><u>第六次総合計画の策定に当たっては、まちづくりを考える上で生かすべき本市の特性を踏まえながら、検討を進めており</u>、実施計画等においても参考とさせていただきます。</p>

No.	意見等の概要	対応状況
27	人と人が顔を合わせながら何かを進めていく、深めていくというところをどう具体的にやっていくのか考える必要があるのではないか。	
28	基本目標「信頼とやさしさのある 共創のまち」に「健全な財政の維持」という文言が入ってはいるが、今後、厳しい財政の中、何もかも行政頼みではまちづくりは進められない、そのため協働・コミュニティということであれば、その趣旨をもう少し明確に書いていいのではないか。	基本計画（素案）の「 <u>信頼・共創政策</u> 」－「 <u>地域社会を支える協働・連携の推進</u> 」において、 <u>住民主体の地域づくりの促進や市民との協働の推進</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。
29	NPOで活動していると、資金力がない中で生産性を上げるという稼ぐ力というのを最近、県の共生協働などでも、力を入れて推進をしている部分でもある。そういう意味では、企業だけではなく、地域の中でいろんなことをやっていく中にコミュニティを含めた、稼ぐ力が入ってくるのではないかと思う。これから先はこのようなことが重要視されていくかと思う。	(資料11：P8－9「地域社会を支える協働・連携の推進」)
30	ネットワークのダウンに備えるべき時代になるのではないか。	基本計画（素案）の「 <u>信頼・共創政策</u> 」－「 <u>自主的・自立的な行財政運営の推進</u> 」において、 <u>ICT利活用の推進</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。  (資料11：P10－11「自主的・自立的な行財政運営の推進」)
31	交流と言うと外から来ていただくイメージだが、交流には往来が大切であり、来てもらうだけでなく、こちらから出ていく事も重要。	基本計画（素案）の「 <u>信頼・共創政策</u> 」－「 <u>多角的な連携・交流の推進</u> 」において、 <u>都市・地域との連携・交流の推進</u> や <u>国際交流の推進</u> に取り組むこととしております。
32	国際交流については、年代に応じた交流ができればいいのではないか。	実施計画等においても、参考とさせていただきます。  (資料11：P12－13「多角的な連携・交流の推進」)

No.	意見等の概要	対応状況
33	<p>県都としての鹿児島市、もっと言えばアジアの中における鹿児島市とか、無意識かもしれないが、明らかに市民を形作っている「思い」「自信」といったものを計画立案に上手く取り入れていくべき。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>信頼・共創政策</u>」－「<u>シティプロモーションの推進</u>」において、<u>都市ブランディングの推進やシビックプライドの醸成</u>に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p>
34	<p>コロナ禍でなかなか海外の人が、日本に、鹿児島に来られないと思うが、まずは、鹿児島市に住んでいる人たちが、自分たちの地元の良いところを知って、みんなの中で発信していけば、必ずコロナが明けるときがくるので、その時の準備になるのだろうと思っている。</p>	<p>（資料 11：P14－15「シティプロモーションの推進」）</p>
35	<p>外国の方の目線をもっと大事にすべきである</p>	
36	<p>外国人の視点をもっと取り込む必要がある。</p>	
37	<p>鹿児島市に住む外国人が今後増加することが予想される。これからは、若い労働力になったり、国際結婚して少子高齢化に対しても貢献したり、移住者として鹿児島に資産を持ってきて居住する可能性もあると思う。外国人がこれから増える点について言及が少ないのではないか。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>信頼・共創政策</u>」－「<u>誰もが個性と能力を発揮できる地域社会の形成</u>」において、<u>人権の尊重や多文化共生の推進、平和意識の醸成</u>に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料 11：P16－17「誰もが個性と能力を発揮できる地域社会の形成」）</p>
38	<p>戦争を知らない高齢者が出てきた。</p>	
39	<p>ICTを活用した働く環境づくりやLGBTなど価値観の多様性の部分が多く盛り込まれていないように感じる。多様な社会を実現するために、どのようなアクションを取るかというところまで盛り込めないか。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>信頼・共創政策</u>」－「<u>誰もが個性と能力を発揮できる地域社会の形成</u>」において、<u>多様化する人権問題への対応</u>に取り組むとともに、「<u>産業・交流政策</u>」－「<u>地域産業の活性化</u>」において、<u>新たな働き方への取組支援</u>に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料 11：P16－17「誰もが個性と能力を発揮できる地域社会の形成」、P30－31「地域産業の活性化」）</p>

No.	意見等の概要	対応状況
40	「ゼロカーボンシティかごしま」はいい取り組みだが、ただ自然のためというだけでは意味がない。その取組自体が他都市より勝っているとか、企業の競争力を上げるというようなことに結び付けられないか。	基本計画（素案）の「 <u>自然・環境政策</u> 」－「 <u>ゼロカーボンシティかごしまの推進</u> 」において、 <u>再生可能エネルギーの地産地消の推進やエコビジネススタイルへの転換</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。  （資料11：P18－19「ゼロカーボンシティかごしまの推進」）
41	ゼロカーボンシティや3Rに加えて、「アップサイクル」や「脱プラスチックシティ」といった視点も入れれば、他都市と区別化が図られ、稼げる鹿児島市につながるのではないか。	基本計画（素案）の「 <u>自然・環境政策</u> 」－「 <u>循環型社会の構築</u> 」において、 <u>プラスチック資源循環への取組としてワンウェイプラスチックの排出抑制など</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。  （資料11：P20－21「循環型社会の構築」）
42	歩いて行ける公園はボール禁止のところが多く、子どもたちが歩いていけるところにも、もっと伸び伸びと遊べる公園があるといいなと感じている。	基本計画（素案）の「 <u>自然・環境政策</u> 」－「 <u>人と自然が共生する都市環境の構築</u> 」において、 <u>身近な公園・広場の創出・拡充や広く市民に親しまれる公園の充実</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。
43	子どもたちが遊べる、お年寄りも健康を維持できる観点での公園整備が重要。	（資料11：P22－23「人と自然が共生する都市環境の構築」）
44	Wi-Fiが鹿児島市は都市部に比べたら圧倒的に整っていないと指摘されていた。ICTに関する部分は、そういった部分も具体的に変えていった方がいいのではないか。	基本計画（素案）の「 <u>産業・交流政策</u> 」－「 <u>地域特性を生かした観光・交流の推進</u> 」において、 <u>世界標準の受入・案内機能の充実やオンリーワンの魅力創出</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。
45	オンリーワンの魅力創出が大事。	（資料11：P26－27「地域特性を生かした観光・交流の推進」）

No.	意見等の概要	対応状況
46	<p>スポーツ交流は五次総では文化と同じ政策にあったが、産業交流に移って稼ぐ力の一貫にしようという思いもあるかと思う。そういう面があるのであれば、そのことも表現してはどうか。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>産業・交流政策</u>」－「<u>スポーツ交流・振興の推進</u>」において、<u>スポーツを生かしたにぎわい創出</u>に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P28－29「スポーツ交流・振興の推進」）</p>
47	<p>多様で柔軟な働き方は、どのような働き方を想定しているのかわかりにくい。いわゆる非正規雇用が労働力の調整弁にできるような働き方も含んでいるのではないかと受け取れる一方、ワーケーションやテレワーク、複数拠点などの働き方もある。要はワークライフバランスであり、「ワークライフバランスを実現しつつ多様な働き方を支援し」としてはどうか。</p>	
48	<p>リモートワークの普及により、地方からでも仕事ができるようになり、色々な環境で働けるような状況になってきている。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>産業・交流政策</u>」－「<u>地域産業の活性化</u>」において、基本的方向で「<u>ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、市内事業者の労働環境整備を支援し、働き手の事情により応じた多様で柔軟な働き方を促進する</u>」としております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P30－31「地域産業の活性化」）</p>
49	<p>共創の観点から、働き方改革の中で市民の利益や住んでいる所に目を向けられれば、コミュニティ協議会などの活性化につながるのではないかと思う。働き方改革について、地域活性化の視点を取り入れていただきたい。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>産業・交流政策</u>」－「<u>地域産業の活性化</u>」において、基本的方向で「<u>ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、市内事業者の労働環境整備を支援し、働き手の事情により応じた多様で柔軟な働き方を促進する</u>」としております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P30－31「地域産業の活性化」）</p>
50	<p>鹿児島市の現状を見ると、卸売業・小売業、医療、福祉、宿泊業・飲食サービス業、運輸業、郵便業などの従業者数が多く、いわゆるエッセンシャルワーカーと呼ばれる方々である。コロナ禍の中でも、リモートワークはできず現場に行かなければならず、また、非正規も多く労働条件も厳しいといったことをおさえておく必要がある。</p>	

No.	意見等の概要	対応状況
51	<p>「生涯学習環境の充実」について、学び直しは、労働者が異なる職種へ転職する際やデジタル化など時代に合わせてキャリアアップしていくためのものでもある。産業政策としての視点での、夜間中学なども含む高校や大学との連携も含むものとして、取り組んで頂きたいと思う。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>産業・交流政策</u>」－「<u>地域産業の活性化</u>」において、<u>産学官連携による若者の地元定着の推進</u>に取り組むとともに、「<u>子ども・文教政策</u>」－「<u>生涯学習の充実</u>」において、<u>生涯学習環境の充実</u>に取り組むこととしております。実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p>
52	<p>学校教育後の学び直しや働きながらのキャリアアップの促進に関する意見があり、リカレント教育というキーワードを入れた方がいいと思った。リカレント教育は、1973年にOECDが報告して以来ずっと言われてきたが、最近、人手不足や超高齢社会への打開策として急に脚光を浴びている。大学で社会人講座を開いても参加者が少ないことから、ニーズをもっと掴み発信し、社会人をバックアップする体制を整えなければならないと思う。鹿児島市は労働者が集まっており、その学び支援は重要。</p>	<p>（資料11：P30－31「地域産業の活性化」、P52－53「生涯学習の充実」）</p>
53	<p>団塊の世代が後期高齢者になることや、8050問題に関する文言を入れてはどうか。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>健康・安心政策</u>」－「<u>高齢化対策の推進</u>」及び「<u>地域共生社会の実現</u>」において、<u>現状と課題として、団塊世代が75歳以上になることや8050問題等を掲載</u>しております。実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P36－37「高齢化対策の推進」、P38－39「地域共生社会の実現」）</p>
54	<p>一人暮らしの方があまり外に出られず、体力低下や認知症の問題が出てきている。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>健康・安心政策</u>」－「<u>高齢化対策の推進</u>」において、<u>生きがいきづくり・社会参画の促進や認知症対策・権利擁護の推進、介護予防・地域支援体制の充実</u>に取り組むこととしております。実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P36－37「高齢化対策の推進」）</p>

No.	意見等の概要	対応状況
55	<p>「健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、共に助け合い、一人ひとりが自分らしく生活できる地域づくりを進めます」という言葉の中には全て入っていると思う。ただ現実には、地域で困っている人は本当に些細なことで困っており、「支え合い」だけでは補えない部分もある。行政が主導し、コーディネートできればと思う部分もあるので、「自分らしく生活できる地域づくり」というところに、その内容が入ればいいのではないか。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>健康・安心政策</u>」－「<u>地域共生社会の実現</u>」において、<u>支え合う地域づくりの推進や社会保障制度の円滑な運営</u>に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p>
56	<p>ボランティアという言葉が何となく遠のいてしまっているのではないか。</p>	<p>(資料11：P38－39「地域共生社会の実現」)</p>
57	<p>いわゆる公助、公によるセーフティネットがベースにあるべきだ。</p>	
58	<p>医療健康について、福祉もちろん大事だが、病気を予防する観点も大事だと思う。例えば、体力づくりとか健康教室をすることによって、若い人もお年の方もリスクを減らしていくというのも大事である。</p>	<p>基本計画（素案）の「<u>健康・安心政策</u>」－「<u>健康・医療の充実</u>」において、<u>健康づくりの推進や保健予防の充実</u>に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>(資料11：P40－41「健康・医療の充実」)</p>

No.	意見等の概要	対応状況
59	基本目標「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」の文中、「支援」は市民に対する支援という意味だと思うが、事業者の教育という意味合いも含ませることができればと思う。	<p>基本計画（素案）の「子ども・文教政策」－「<u>少子化対策・子育て支援の推進</u>」において、<u>出会い・結婚の支援の充実や妊娠・出産・子育てにおける切れ目のない支援の充実、幼児教育・保育の充実、地域における子育て支援の充実</u>に取り組むこととしております。</p> <p>実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料 11：P 46－47 「少子化対策・子育て支援の推進」）</p>
60	本来は子育て支援の中の一つとして待機児童対策があるべきなのに、待機児童対策をすることが子育て支援だ、という捉え方のずれみたいなものがないか。家庭での子育ての支援、あるいは、市・地域によって支えられる子育てのあり方などにも着目し、子育ての「全体が支えられている」という共通意識・方向性が現れてくるといい。	
61	国の施策を後追いするような形だと、少子化が進んでいるのに待機児童問題が深刻化するという、矛盾するような状況に鹿児島市も陥りかねない。国の施策に基づかないといけない部分は多々あるが、市独自の、鹿児島モデルと言えるような子育ての都市づくりが重要。	
62	待機児童の改善も大事だが、経済的な理由で結婚が難しい方や、経済的な理由で子どもをつくりづらい方々への支援も必要だと思う。	
63	学校教育の表現に、国としても強く推し進めている「キャリア教育」がないのは残念。教育の情報化も含め、先進的でエッジの効いたキーワード、鹿児島市の強みを押し出す表現がどこか1つあればと思う。	
64	キャリア教育は「信頼・共創政策」や「産業・交流政策」など、他の政策と連動・横断しやすく、本来、学力向上まで含めた用語である。表題に掲げるのが難しいのであれば、各論や重点プロジェクトに期待したい。まち・ひと・しごと創生戦略を入れ込むのであれば、若年者の地元定着にもつながるので重要だと思う。	
65	特別支援について、今後もっと力を入れていかなければならないのではないか。	

No.	意見等の概要	対応状況
66	「スポーツを楽しむことができる環境」とあるが、人が集うためにということであれば、文化・芸術・芸能なども含めるべきではないか。	
67	「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」には「文化」という言葉がない。「豊かな個性」に地域文化という考えが入っているとは思いますが、誰もが生涯に渡って学び続けることができる環境を整えるほか、「地域文化や文化芸術」というように「地域文化」を具体的に入れてはどうか。	基本計画（素案）の「 <u>子ども・文教政策</u> 」－「 <u>市民文化の創造</u> 」において、 <u>文化芸術の振興や文化財の保存の充実と積極的な活用</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。  (資料 11 : P 54 - 55 「市民文化の創造」)
68	地域には活用できる文化財がたくさんあるのではないか。	
69	都市交通関係では、必ず交通系 IC カードが使えないという話が出る。一方で、導入には非常に高額予算がかかり、かつ、鹿児島市は老朽化施設を多数抱える等の現状を考えると、手を出しづらい。	基本計画（素案）の「 <u>都市・交通政策</u> 」－「 <u>市民活動を支える交通環境の充実</u> 」において、 <u>公共交通の利用促進・サービス水準の向上や持続的な公営交通の運営</u> に取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。
70	バスについて、特に路線バスは厳しいが、路線を守らないといけないものでもある。単純に効率的で持続可能というのは難しい事だと思う。	(資料 11 : P 60 - 61 「市民活動を支える交通環境の充実」)
71	稼ぐ力というのは、知事も市長も公約に入っている。稼ぐの定義をした方がいい。誰が稼ぐのが、稼いだお金はどこに行くのか、非常にあいまいである。	
72	「稼ぐ力」は、例えば観光業・観光施策で、インバウンドが増えても実際に鹿児島に落ちるお金が少ないという課題認識の際によく聞く。あるいは、自治体や NPO のように、公共性が高く「稼ぐ」イメージのないところが、財政難の現状打開や維持発展のために強調し、あえて「稼ぐ自治体 (NPO)」と言うことがある。	基本計画（素案）の「 <u>“地域の稼ぐ力”向上プロジェクト</u> 」において、 <u>地域産業の生産性向上支援やスマート農林水産業の推進</u> などに取り組むこととしております。 実施計画等においても、参考とさせていただきます。  (資料 11 : P 66 - 67 「“地域の稼ぐ力”向上プロジェクト」)
73	ICT を活用した産業は、ICT の業態だけでなく、ICT を活用して農林水産業などの生産性を上げるとか、商品開発をするといった着想につながるような表現があればいい。	

No.	意見等の概要	対応状況
74	10年後なので、デジタルトランスフォーメーションによる変化など、新しい未来が、より見えるような総合計画にしていければいい。	<p>基本計画（素案）の「<u>“ICTで住みよいまち”推進プロジェクト</u>」において、<u>ICTの活用による市民サービスの向上やICTリテラシー向上の推進、自治体DXの推進、ICT関連産業の振興</u>に取り組むこととしております。            実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P68-69「<u>“ICTで住みよいまち”推進プロジェクト</u>」）</p>
75	デジタルトランスフォーメーションが言われているが、その要素が少ないと思う。	
76	重点プロジェクトの中でICTで住みよいまちとあるが、どちらかといえば市民サービスが中心となっている。社会課題の解決に活用する視点を入れてもいいのではないか。	
77	ICTは、お年寄りのことも考えながら、慎重に推進していく必要がある。	
78	ICTを、便利になるツールとして必要な方に提供できる仕組みを作っていくべき。	
79	ICTを使いこなせる若い人たちが、使いこなせていない世代の人たちに対して、地域でどんどん教えてあげるような活動ができればいい。	
80	鹿児島らしいICTの未来について、ICTの活用により機械化等が図れるという観点もあるが、一歩進んで、国籍、性別、年齢などダイバーシティの観点から、子育て中の方や高齢者、障害のある方など、ICTがより多様な市民の社会の関わり方や働き方を可能にするという観点を入れてはどうか。あまねくデジタルの恩恵を受けられるようにするのも行政の役割かと思う。	
81	鹿児島のICTの分野、ITの人材という部分でいうとまだまだ人が足りていないと思う。	
82	市街地だけでなく、里山があるような農村、中山間地の暮らしが取り残されないような視点が必要。	<p>基本計画（素案）の「<u>地域別計画</u>」において、<u>各地域・地区別の現状や課題、まちづくりの基本的方向</u>を示しております。            実施計画等においても、参考とさせていただきます。</p> <p>（資料11：P73～107「<u>地域別計画</u>」）</p>